

平成 26 年度 愛媛県社会教育実態調査（指定テーマ編）

「公民館を核にした地域における社会教育活動の実態と住民の意識」の概要

1 アンケート調査

(1) 目的

住民が公民館をどのように利用し、公民館のことをどのように感じているのか等を直接アンケート調査することによって、今後検討する「公民館を核とした地域の社会教育活動活性化策」などの社会教育施策が、より住民の意識を踏まえた有効なものとなるよう役立てる。

(2) 対象・方法

別途行う社会教育実態調査（公民館長等を対象とした聞き取り調査）の対象地域内にある小・中学校の協力を得て、その保護者等に調査票を配布・回収した。（県内 3 地域（東中南予）それぞれの都市部・住宅地・小規模集落で計 9 地域）

(3) 回収率 55.1%（回答数 2,371 人／配布数 4,304 枚）

	都市部		住宅地		小規模集落	
	回答数(人)	配布数(枚)	回答数(人)	配布数(枚)	回答数(人)	配布数(枚)
中予	259	492	679	1,052	80	100
東予	265	530	443	932	33	62
南予	147	322	417	742	48	72

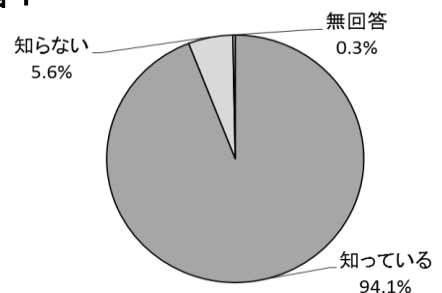
(4) 調査から見てきたこと

ア 公民館に関する認知度について

【場所】

居住地域の公民館の場所の認知度は、全体の 94.1%。知らないと回答した住民は、5.6% (2,371 人のうち 133 人) であった。

図 1

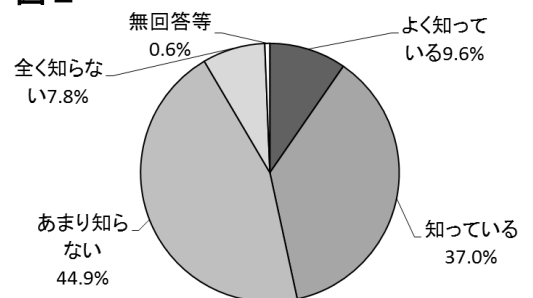


【役割や具体的な活動内容】

「よく知っている」と「知っている」の合計 46.6%より、「あまり知らない」「全く知らない」の合計 52.7%の方が大きい。

半数以上の住民が公民館活動に対する正確な知識や情報を持つことができていないことがうかがえる。

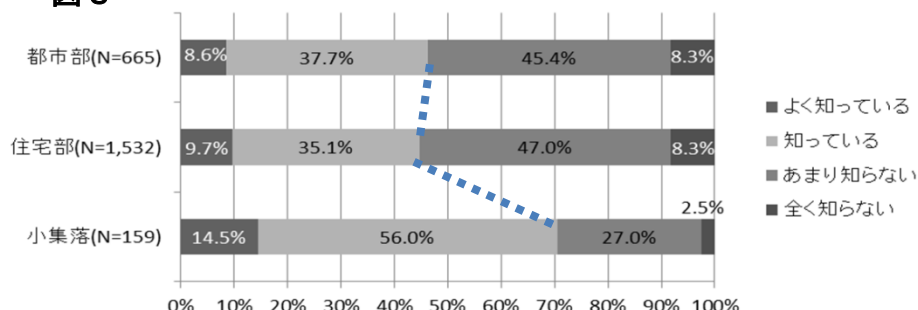
図 2



※ 地域別にみる【役割や具体的な活動内容】の認知度

「よく知っている」と「知っている」の合計が、「都市部」と「住宅部」ではどちらも5割を下回っている。「小集落」では7割を超えている。

図3



「住民は公民館のことは知っているはずだろう」と考えないように意識して、役割や活動内容を知ってもらう方策を検討し、努力することが必要

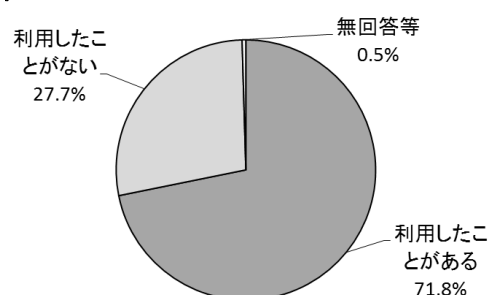
イ 公民館の利用について

【利用の有無】

公民館を「利用したこと（行ったこと）がある」との回答が71.8%である。

約3割の住民が公民館を利用していない。

図4

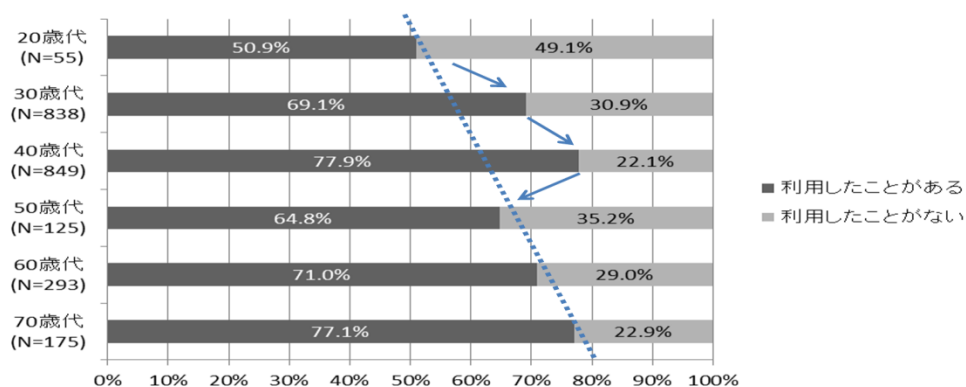


※ 年齢別にみる【利用の有無】

30歳代～40歳代で、「利用したことがある人の比率が一旦上昇し、50歳代で大幅に低下している。

学校行事等を通じて地域社会と関係を持っているが、子どもの卒業とともに、その関係が途切れている可能性がある。

図5



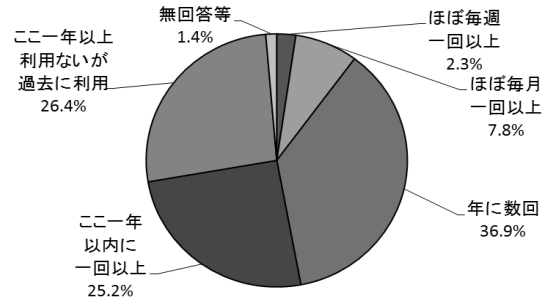
主に学校と子どもの保護者としての関係により一旦築いた地域社会との関係を、子どもが卒業しても継続できる活動の企画や工夫が、今以上に求められる。

【利用の頻度】

「ほぼ毎週」(2.3%)、「ほぼ毎月」(7.8%)の合計は10.1%に過ぎない。

日頃から公民館活動をしている住民は、極めて少ない。

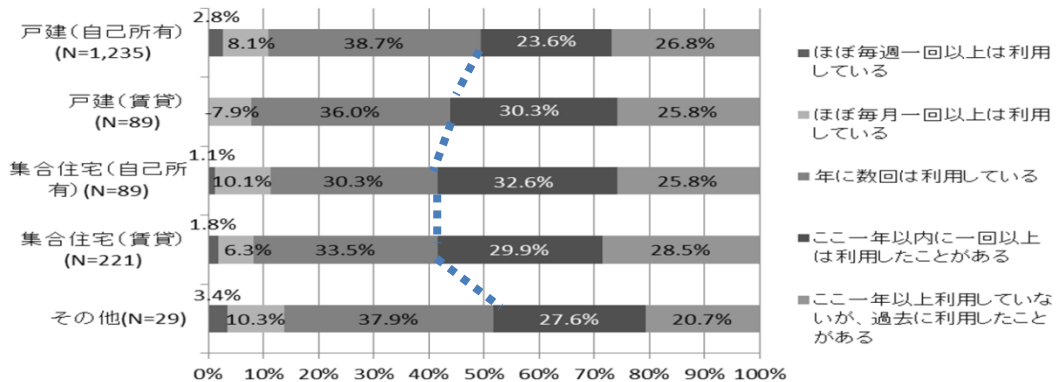
図6



※ 既利用者と【居住形態】

公民館の既利用者 1,703 人のうち、「ほぼ毎週利用している」「ほぼ毎月利用している」「年に数回利用している」との回答合計を居住形態別にみると、最も高かったのは戸建(自己所有)の49.6%で、最も低かったのは集合住宅(自己所有)で41.5%である。

図7



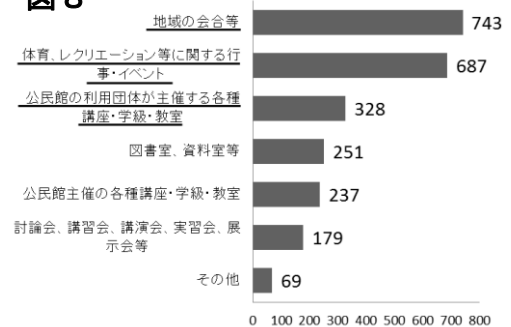
賃貸住宅は居住年数が短く、やむを得ない側面があるが、分譲住宅は、基本的に永住する地域住民であるため、これらの住宅環境の変化への対応(つながりの作り方)は、大変重要。

【利用の目的】

地域のことについて話し合う場として多くの住民に利活用されている。

公民館がまちづくりの拠点となっていることが推察できる。

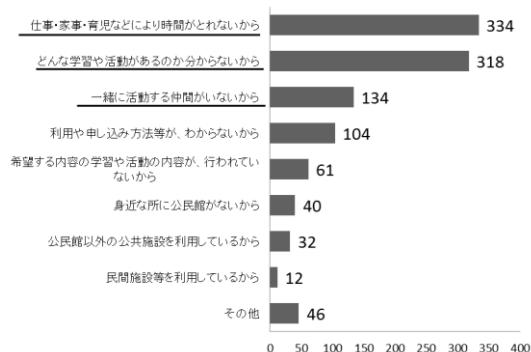
図8



【非利用者の利用しない理由】（複数回答）

「仕事・家事・育児などにより、時間がとれないから」、「どのような学習や活動があるのか、わからないから」、「一緒に活動する仲間がいないから」3つの理由の合計が回答数 786 で、回答総数の 73%を占めている。

図 9



利用の障害となっている理由を少しでも解消するための方策を検討(研究)することによって、新たな利用者を引き込む可能性は？

【非利用者の考える公民館の良くない点】

- ・ 発信力が乏しい。公民館で何をしているのか分からない。
- ・ 古くから住んでいる老人が集まっているという印象がある。
- ・ 昼間の活動がほとんどで、参加しづらい。

いただいた意見に活性化の可能性？

【ここが変われば公民館を使ってみたいと思うこと】

- ・ 季節のイベント、子どもが楽しめるもの。
- ・ 活動内容を学校のプリントで配布してほしい。
- ・ 何か行事のきっかけがあれば、参加できる。(通知等)

気軽に参加しやすいイベント、学校との連携、住民への情報伝達など、たくさんの前向きな意見に公民館への期待が。

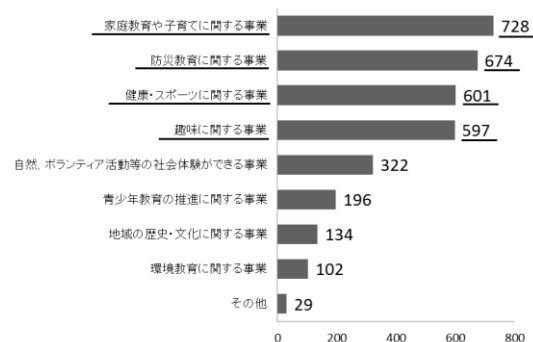
ウ 公民館の事業について

【今後、力を入れて欲しい事業】

当該設問については、回答総数が 3,383 と極めて多くなっており、多くの住民が公民館に対して、何らかの期待や要望をもっていることがうかがえる。

回答結果で最も多いのは「家庭教育や子育てに関する事業」(回答数 728)であり、「防災教育に関する事業」(回答数 674)、「健康・スポーツに関する事業」(回答数 601)と続いているなど、地域課題に対応することに期待が多くなっている。

図 10



主催事業の企画にあたっては、住民ニーズや住民が考えている地域課題の把握にも努め、開催日数や内容に反映させる努力も求められる？

エ その他、意見・要望等（主な内容）について

【講座関係】

- ・ 子どもが休日に参加できる料理教室や手芸・茶道・華道教室など、いろいろな趣味の世界に触れて、体験できるイベントを定期的に行ってほしい。
- ・ 幅広い年齢層が増えるような催しを常を開いてほしい。
- ・ 絵画教室、福祉について学びたい。
- ・ 婚活運動に力を入れてほしい。

【利用方法】

- ・ 図書室の開放日が少ない。
- ・ 時間帯を拡げてほしい。利用者が一部の人だけでないように。

【子育て】

- ・ 子どもが安心して遊んで集える場所がほしい。いつも誰かがいる公民館がそういう場所であればよい。
- ・ 安く子供たちに学習の場を提供してもらいたい。貧富の格差を埋める子どもたちの学習の場を設けてほしい。
- ・ 子育てや子ども育成に対するサービスが乏しい。

【高齢者】

- ・ 高齢者が活躍する場として、子どもと関わる空間を提供してほしい。
- ・ 地域住民の高齢化が進み、独居老人や老夫婦世帯も増えて、一日話し相手もなく生活している方々が多くなっている現在、デイサービス利用だけではなく、まだ自分で動ける方々が気軽に集まって話をしたり、何か行ったりする場所があればと思う。

【コミュニティ】

- ・ 高齢者の利用ばかりで、転入者には敷居が高い。
- ・ 転入したものも使いやすい雰囲気してほしい。

【広報】

- ・ 利用したいと思うような公民館のアピールをしてほしい。
- ・ 課題に即した対応（特に地域づくり）が必要だと思う。
- ・ 「公民館に避難できます」と言われても、場所が分からず戸惑った。自分自身の無関心もいけないと思うが、公民館が主体となって、避難マップなどを作ってほしい。

【その他意見】

- ・ 地域活性の原動力として地域婦人会、青年団の再編成を検討すべき。
- ・ 公民館長をもっと若い人に代わってほしい。
- ・ 現在の状況では存在意義がよく分からない。
- ・ 元公民館主事だが、退職と同時に公民館とのつながりがなくなった。協力員として活用してほしい。
- ・ 夏休みの子ども対象の行事はとてありがたく、これからも楽しみにしている。ただ、公民館へ足を運ぶ機会はあまりなく、さみしい。

たくさんの意見・要望は、公民館活性化への可能性！！

2 聞き取り調査

(1) 公民館長

ア 公民館の運営・管理体制について

【職員構成】

館長職はほとんどが非常勤であり、おおむね3, 4名の職員で公民館を運営している。一部の館長からは、「少ない人員で手いっぱいであり、忙しくしている主事等職員に、これ以上の負担を強いることはできない」などの発言があった。

【26年度に取り組んだ新規事業】

東予では、小学校との連携、補助事業の実施、中予では、大学と連携した新規講座に取り組んでいた。南予地域では新たな取組はなく、定例の行事を中心に公民館運営が行われていた。

東予：水源地ダムツアー（補助金を受けての事業）

中予：愛媛大学（グローバルデザイン）と連携した国際交流活動

南予：老人クラブ内に太鼓グループを立ち上げることに協力 など

【関係の深い社会教育関係団体、NPO、企業等】

どの館においても、多くの団体と密接な関係にあることがうかがえた。

特に、自治会との関係が密接であり、一体となって事業展開している場合が多く見受けられた。

都市部	町内会、婦人会、子ども会、PTA、高齢者会、交通安全協会、体協、銀行、信用金庫、ボランティア団体、商店街組織、連合自治会、企業(広告協賛金)、民生委員、スポーツ少年団、愛護班など
住宅部	自治会、婦人会、PTA、壮年会、農協、敬老会、防犯協会、愛護班、文化協会、お祭り運営組織、ジュニア合唱団、学校、社会福祉協議会、民生児童委員、青年団、地区団体連絡協議会（事務局は公民館）など
小集落	自治会、学校、婦人会（女性グループ）、青年団(会)、老人クラブ、商工会、PTAなど、 <u>あらゆる団体が地域全体で協力。地域活性化委員会</u>

公民館の運営・管理体制の実態から、都市部と小集落の課題解決策を同じ視点で検討することは、適当だろうか。

イ 公民館運営審議会について

【喫緊の地域課題】

- ・ 高齢化、若者の取り込み。
- ・ ボランティア（環境整備）の増。
- ・ 定住促進、空き家の活用。
- ・ 既存団体に、地区の社会福祉協議会、民生委員等を加えた組織を立ち上げ、地域課題の把握や解決に向けた協議を開始する予定。
- ・ 地域課題や要望が見えていないことが課題。アンケート等を実施して、

今地域が抱えている課題や要望を把握することを検討したい。

ウ 学校や地域等とのつながり・関わりについて

【学校とのつながりの満足度】

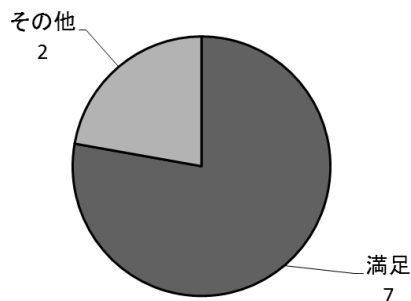
[満足 7]

- ・ 満足している。十分に満足など。

[その他 2]

- ・ 先生たちがいなくても地域の人々がやってくれるので大丈夫。
- ・ かかわる方法を模索中。

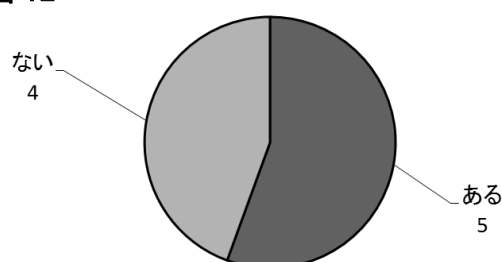
図 11



【首長部局等との協働行事・事業】

- ・ 地域全体の防災訓練。
- ・ 福祉課と協力した健康パトロール。 地域の方々の健康管理に役立っている。
- ・ 福祉部との協働によるサロン。タウンミーティング。
- ・ 協働事業はないが、市で行われる大きな行事には、主事が集められる。

図 12



地域課題へ対応のためには、「自治会・まちづくり協議会・福祉部局・NPO関係者」等との連携・協働

エ 行政への希望・要望について

【市町に対して】

- ・ これ以上の予算の減額は困る。
- ・ 人的支援が欲しい。公民館を嘱託方式にはしないでほしい。
- ・ 館長の勤務が短いため、中・長期的に公民館の在り方を考えることが難しい。

【県（教委、知事部局含）に対して】

- ・ 事業は、2・3年続けたら後は市で行うようになるので、あまり期待はしていない。
- ・ 交通の不便さ、バリアフリーなど施設の難しい。
- ・ 社会教育が地域づくりにどこまで貢献できるかを考えるとむなしく感じることがある。里山を中心とした地域のつながりこそが、日本の復活だと考えている。

【国に対して】

- ・ 公民館活動がどういう方向に進めばいいのか示して欲しい。
- ・ 特にはないが、財政的なものの根本は国だと考えている。

公民館は、条例設置の市町立社会教育施設であるため、各市町において進むべき方向を改めて検討する必要

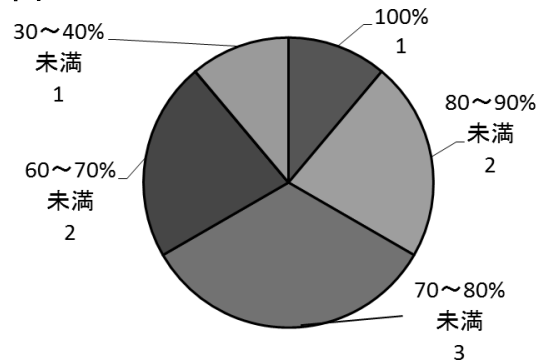
(2) 自治会長

ア 組織概要

【加入率】

- ・ 対象9自治会の分担金徴収率から見た加入率は、平均で73.1%。
- ・ 原則は全戸加入だが、独居老人世帯の増加や低所得世帯を背景に、加入率が低下していると感じる。
- ・ 借家、マンションなどは転勤等で、転居が多いことから加入していない。転入者は役をやらない。加入率は年々ひどくなっていると感じる。

図 13



イ 公民館活性化のために

【新企画アイデア】

[都市部]

- ・ 子ども会、婦人会、更生保護等の公民館利用団体が集まって話し合う機会がない。そのため、利用団体が集まって協働事業ができれば良い。
- ・ 市町行政窓口のサテライト併設（毎週〇曜日は〇〇課の人が来るなど）
- ・ 会場使用の融通が利けば公民館で開催できる企画があるはず。特区のような運営を検討すべき。

[住宅部]

- ・ 公民館活動のアドバイザーを県から派遣して欲しい。
- ・ 研修内容を改善して、規模別・テーマ別に実施

[小集落]

- ・ 自治会と公民館の組織の重複があるのでシンプルな運営組織に。
- ・ 地域に多数ある「空き家」を活用した企画提案が何かできないか。
- ・ 働く場を創り出すことが全てに繋がる。

【利用に関する要望】

[都市部]

- ・ 若者や子育て家庭の住民が希望する活動を可能にできる公民館づくり（例：ダンス、バンド、演劇の練習）
- ・ 放課後児童クラブへの場所提供（学校に空き教室がなくて実現できていない場合など）

[住宅部]

- ・ 特になし。

[小集落]

- ・ コミュニティー推進のための事業を公民館で実施したい。

(3) 学校長

ア 学校と公民館（地域）のつながり、関わり

【学校を利用して実施する公民館活動、あるいは地域活動】

- ・ 9校のうち1校を除き、複数の活動が活発に行われている。

主な活動：各種体育行事、地域防災や人権に関する集いなど

[学校としてのメリット]

- ・ 公民館行事に子どもたち・教員が参加することで、地域の中の学校というアピールができる。
- ・ 学校では見られない子どもの姿が見られる。
- ・ 子どもが多様な世代と交流・体験することができる。
- ・ 地域の方々に頑張りを認めてもらえれば、子どもたちの自己有用感が高まる。

[学校としてのデメリット]

- ・ 休日に地域行事に参加した場合、職員に代休を与えることができない。
- ・ 行事のたびに依頼に来られる。
- ・ 実施主体が、学校なのか公民館なのかはっきりしないところがある。
- ・ 児童の事業への参加依頼が間近になってくることがある。

【公民館利用の学校・地域行事】

[学校としてのメリット]

- ・ 地域の方々との関わりから、子どもたちのコミュニケーション力が高まる。
- ・ 子どもたちの見守りにつながる。
- ・ 学習に保護者も参加することで、親子で地域を知る機会となる。

[学校としてのデメリット]

- ・ 実施主体が、学校なのか公民館なのかはっきりしない。
- ・ 全員参加してほしいが、参加したい子どもが大勢いると受け皿の問題がある。

イ 公民館活性化のために

【新企画アイデア】

- ・ ハードよりもソフト、心のつながりが深まるような事業を期待する。
- ・ 防災についての意識が低いように感じる。力を入れてほしい。
- ・ 子どもだけの教育では不十分だと感じるため、地域全体で、地域への愛着がわくような事業を期待する。
- ・ 地域と親が協働企画する事業を実施してほしい。（子どもたちに、やりぬく力を育成するようなもの）
- ・ 1泊2日程度の体験活動等、学校だけでは実施できないような事業を期待する。
- ・ 地域の人が足を運んでくれるような行事。出身者が、その時だけでも帰ってきてくれるような行事を期待する。

(4) 地域の若者組織の代表

ア 団体と公民館の関わり

【特色ある取組み】

- ・ 社会福祉施設との交流会（18歳未満の要養護児童を養護し家庭的な環境を与え、社会の健全な一員となるよう、必要な指導援助を行うことを目的としている施設）
- ・ 小学校6年生との体験活動（年間4回：登山、サイクリング、カヌー、キャンプ）
- ・ スポーツ少年団関係の大会（ソフトボール、バスケットボール）
- ・ 地方祭（毎年、ステージ運営）
- ・ 盆踊りの櫓組み（商工会青年部）
- ・ 地区住民が参加する納涼大会・体育祭への参画。

イ 公民館活性化のために

【新企画アイデア】

- ・ ニーズに対応した関係機関や地域人材のリストがあればありがたい。
- ・ 子どもが気軽に遊び、大人が見守る体制が公民館の中にあるといい。
- ・ 若い人対象のメニューがない。
- ・ 公民館は、常日頃から異世代が集うことができる地域の拠点であるため、より多くの世代が交流できるイベントを期待する。
- ・ 地域の人の中には、すごい技をもっている人がいる。家庭では教えることのできない部分を教えてほしい。

ウ 公民館運営審議会委員として

【目指すべき方向と期待する役割】

- ・ 地域の高齢者を地域の資源として取り込んだ活動を期待する。
- ・ 公民館を拠点とした各種団体の交流が深まる事業を期待する。（“食”をキーワードに地域全体を巻き込むイベントなど）
- ・ 地域住民の交流が一層活発になるよう期待する。

エ 行政への希望・要望について

- ・ 環境がよく、とても住みやすい地域であり、災害もないが働く場所がなく若い人は町外、県外に流れてしまう。若い人が残る就職先がほしい。